

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間： 2007～2008
課題番号： 19530475
研究課題名（和文） 現代都市の道の多元的な空間構成における公共性とコンフリクト
研究課題名（英文） Multiple Construction of Public Dimensions of Road Space
in Contemporary Society viewing from the Conflicts among
its Different Dimensions

研究代表者

長田 攻一（OSADA, Koichi）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：10120908

研究成果の概要：

本研究は、現代都市道空間の公共性の特質について明らかにすることを目的とし、道空間を、物理的空間、社会的相互作用空間、表象空間の3側面に分け、とくに後2者の側面から、現代都市街路の道空間の公共性の特質を、その多元的な空間構成のダイナミックな関係に注目して探ろうとしたものである。その研究成果は、理論編、国内各都市とパリの街路の事例研究、絵画・写真に表象された道空間の分析としてまとめられた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：基盤研究（C）

キーワード：道、空間、公共性、相互行為パターン、表象

1. 研究開始当初の背景

(1)これまでの研究経緯

四国遍路道を中心とするこれまでの研究過程で、われわれは「道空間」の多元性についてさまざまな視点から考察する必要性を認識するようになった。それを大まかにまとめるならば、第1に、陸、山、海、河、空中など、人間身体の移動を可能にする「物理的空間」の素材に基づく多元性、第2に、それらの物理的空間に支えられ多様な乗り物による移動ばかりでなく、休息所、宿泊施設、寺社、商店街、駅などの施設を媒介として、行き来する人同士や沿道の人との交流を含む「社会的相互行為空間」における行為パターンや性質に基づく社会空間としての道空間の多元性、そして第3に、それらの多様な自然に付随する、石(山、岩の地質的特質)、水(海、川、滝、湧き水)などの自然の諸成分、それを媒介として生み出される道標、石碑、墓などの人工的造成物、人との交流によって生み出され堆積された相互行為パターン、それに基づく歴史的物語や伝説、あるいはさまざまな絵画、詩、文学を通して生成される道の文化(表象空間としての道)の多元性である。これらはまた、相互に影響を及ぼしあって道空間の多元的現実(リアリティ)という特質を構成している。

(2)本研究の二つの課題

以上のような研究の経緯を踏まえて、本研究では、二つの課題を設定した。一つは、とくに都市街路を中心に、「見知らぬ人」同士のつくる公共空間としての特質に注目してみたい。それは、先に分類した道空間のなかでも「社会的相互行為空間」に照準し、しかも個々の人間のみならず、馬車、自転車、自動車といった乗り物の技術の発達に伴う移動体の多様性によって生み出される「社会的相互行為パターン」に目を向けようとするものである。そこから、歴史的に堆積されてきた沿道に固有の習俗を導き出すことも可能であるが、今回の場合はとくに都市街路における多様な乗り物同士の相互行為パターンに注目する。その狙いは、多様な移動手段を用いて比較的多くの見知らぬ人が行き交う都市街路における「社会的相互行為」が、どのようなメカニズムを通して現代社会の道空間の公共的秩序をつくり上げているかを明らかにしようとするものである。

もう一つの課題は、表象空間としての道空間の多元的意味を、写真、絵画など、異なるメディアを通して探っていく試みを扱っている。これは最初から研究デザインのなかに位置づけられていたものではなく、異なるディシプリンの研究者との交流の中から研究途中で偶然構想されたものである。したがってそれは、必ずしも

現時点で「現代都市の多元的道空間の公共性」の意味に関する総合的な結論を得ることを期待したものではなく、この研究分野において相互に刺激し合い共振しうる暫定的なアプローチを提示し、今後の共同研究の足掛りをうることを目的としている。その意味で、本研究の一部としてきわめて重要な位置を占めるものである。以下では、それぞれの研究目的と研究方法、研究成果について説明していく。

2. 研究の目的

(1)課題1(第 部)の研究目的

以上のわれわれの研究の経緯を踏まえて、本研究第 部は、現代都市における道空間の公共性の変質とその現代社会的意味について明らかにすることを目的とする。道が基本的に移動を中心とする空間であり、誰でも通行可能であるとすれば、道空間は、異質な通行者の存在とその通行を保障する公共的な空間として構成される。現代の都市社会における道空間が、その空間を構成する人びとの間の相互監視と相互承認のメカニズムを変容させ、匿名性と相互の無関心化が極端に進むことによって、通行者同士および沿道生活者と通行者の構成する公共的空間としての意味を著しく変容させてきたように思われる。それは、歴史的に街路の形態が車の通行を念頭において拡幅され、直線化され、舗装され、沿道の建築物の建築基準の整備が進められていく過程と並行しているように思われる。

その場合の関心は、具体的なさまざまな都市街路における多様なスピードとテリトリー空間を有する移動体の相互行為から生み出される公共的秩序の特質を明らかにすることである。その観点からとらえられる公共的社会空間としての道空間は、さまざまな公共性を求めるパースペクティブの間のコンフリクト、また相互に尊重すべきテリトリー空間の侵害可能性を潜在させていることが予想されるからである。第 部の諸論考は、現代社会における都市街路の空間的多元性を、さまざまな異質な移動体と参与単位の織り成す空間的秩序という観点から探る試みであるといえよう。

(2)課題2(第 部)の研究目的

今回はもう一つの課題として、絵画および写真といった「表象空間」としてとらえられる道空間の解釈を通して、現代の都市街路の道空間の特質を探る試みがある。表象された道空間の表現を通して、その背後にある道に対するまなざし、コスモロジーなどを探ることは、一方で、絵画や写真というメディアのパースペクティブにそれぞれ固有な特質が、道空間についてのわれわれのイメージをどのように刺激するかを探

ることを通じ、他方で、現代社会に生きるわれわれの道空間に対する日常的で狭小なパースペクティブによって固定化したイメージを揺るがせることに通じるに違いない。

3. 研究の方法

第 部では、現代日本の都市地域の街路空間、あるいは都市間交通路を「公共性」という局面からとらえ、現代都市街路道を利用する「見知らぬ人びと (strangers)」の徒歩および交通手段 (vehicular units) 同士の相互作用が生み出す社会的道空間に注目し、そこに生じるテリトリー空間の間のさまざまなコンフリクトの顕在化の契機を探る。

具体的には、いくつかの一定区間の道を調査対象として選定し、景観デザインの観察データ、当該区域内の沿道生活者へのアンケート調査による通行者に対する意識と行動、同区間内の通行者、通行車両についてのビデオ撮影による観察データを主要なデータとし、該当の道を媒介とする人びとと相互作用のダイナミックな社会的空間構成を明らかにすることを通して、その道の公共空間的特質を描き出す。

そこで、現代都市の「一般道路」空間における歩行者同士、および歩行者と車の共存におけるコンフリクトにとくに焦点を絞り、交通事故の直接的要因などを物理的空間環境のなかに探るばかりでなく、一般道路の社会文化的空間構成のなかに人と車の共存によるドライバーと歩行者、沿道生活者の間に心理的、社会的、文化的コンフリクトを生み出す要因を探り出すことを試みたい。そのために、町並み保存などの条例化による街路景観の計画的デザインの施されている道における公共空間の質、あるいは、四国遍路のような「お接待」習俗の維持されている道における公共性の質を一定の指標で比較する方法を開発することを試みたい。

第 部では、道空間の表象メディアとして写真と絵画をとり上げる。それは、上の分類で言えば、一部では「道の文化」にかかわる領域を構成するものであるが、一部では絵画、写真という「表象」メディアを通して、「物理的空間」としての道の特質や「社会的相互行為空間」としての道の特質を探る試みともなりうる。写真や絵画の選定や分析方法は、各担当者独自の判断と工夫に委ねられている。このような課題設定を通じて、第1の課題との接点を探る試みは、上で整理した分類からさらに進んで、それら相互の関係を明らかにしつつ道空間の多面的構成についての考察を深めていく上で、きわめて有効であると考えられる。

4. 研究成果

本研究では、既発表の雑誌論文3本を除いて、当面は学会発表や書籍などとしての研究成果の公表の予定はないが、第 部から第 部までの構成による紙媒体での研究報告書としてまとめている。ここでは、その概要を示しておきたい。

(1) 第 部 研究のフレーム

研究の背景、特色、研究目的、研究方法、全体の構成、従来の関連領域における本研究の位置づけなど、本研究の基本的枠組みについて説明している。

(2) 第 部 現代都市の道の多面的空間構成に関する社会的相互行為論的アプローチ

都市街路の社会的相互行為空間における公共性を移動体相互のコンフリクトの潜在的可能性とその回避メカニズムに注目して観察するための方法的枠組みについての論考と、具体的な地域を選定して行われた事例研究を扱う。最初に分析の視点と方法についての二つの論考 (長田攻一および鈴木無二) が提示される。それらを踏まえて、通学路を通る学生と沿道住民の間のコンフリクトを扱った実証的研究 (杉本昌昭) 那覇市、金沢市、世田谷区三軒茶屋の商店街街路空間におけるイベントを巡る相互行為空間の観察をまとめた事例研究 (平野直子) 松山市大街道および平和通の自転車通行を中心とした社会的相互行為空間の分析を行った事例研究 (長田攻一) ゴッフマン的視座からみた岡山市商店街の対面的相互行為の検証 (関 三雄) パリの街路空間における自転車、自動車、歩行者の間の相互行為を分析した事例研究 (池田祥英) 都内数カ所の「花見」名所についての、各参与単位の利用目的、公園や街路本来の特性、花見という文化的背景などにもとづいて一時的に変容・再構築される空間利用の社会的秩序についての分析 (小藪明生) 四国の街路における遍路の通行を巡る社会的相互行為パターンの分析を行った事例研究 (河野昌広) 松山市道後温泉前の改良された街路空間での観光客を中心とした歩行者の相互行為パターンを分析した事例研究 (入江正勝) 街路市における店主、歩行者、自転車、自動車の相互行為パターンを分析した事例研究 (遠山茂樹) 都市の一般道路上の自動車通行における相互行為パターンを分析した事例研究 (坂田正顕) などが研究成果として収められている。

(3) 第 部 道空間への表象メディア論的アプローチ

第 部では、表象空間としての都市街路の特質を、写真と絵画というメディアの特質を通して探る試みとして、3名の研究連携者・協力者による報告が収められる。一つは、現代の東京の

街道筋の空間的特徴を、自ら撮影した写真を通して探る試みである。特定地域の具体的な道空間を選定して、そこを歩きながら撮影した写真に自ら解説を加えていく形で現代都市、東京の道についての考察が行われる(Ludovic Bruneaux)。またもうひとつの論考は、道空間のドキュメンタリー的描写と写真との合体によって日常性の細部を捉えようとする現代フランス作家のプロジェクトを考察の対象として取り上げている(千葉文夫)。最後に、19世紀印象派の画家によって描かれた絵画の中から、都市化が始まる当時の絵画作品を選定し、そこに描かれている道の風景や人びとを素材として、現代社会の都市街路の特質について考察するというスタイルをとっている(坂上桂子)。それぞれ独自の視点から写真および絵画という異なるメディアの特質を踏まえた分析を行っている。

(4)第 部 まとめと今後の研究の展望

第 部では、以上の第 部、第 部の成果を踏まえて、「まとめと今後の展望」として、社会的相互行為空間と表象空間の関係についての暫定的整理と今後の展望が示される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

- 長田 攻一「現代都市の道空間の公共性とコンフリクト 社会学的アプローチ」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 54 輯 2009/3 : 17-31 (査読無)
- 坂田正顕「グローバル化の中での現代巡礼文化の変容」早稲田社会学会『社会学年誌』50 2009/3 : 149-166 (査読無)
- 関 三雄「人類学前夜としての<大航海時代>あるいは「他者性」の思想史：コロン、そしてラス・カサスのことなど」『山陽学園短期大学紀要』第 39 巻 2009/3 : 57-68 (査読無)

6. 研究組織

(1)研究代表者

長田 攻一 (OSADA KOICHI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号 : 10120908

(2)研究分担者

坂田 正顕 (SAKATA MASAOKI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号 : 00063800

関 三雄 (SEKI MITSUO)
山陽学園短期大学・キャリアデザイン学
科・教授(2009年3月31日まで)
研究者番号 : 50269982

(3)連携研究者

氏名 : 千葉 文夫 (CHIBA FUMIO)
所属 : 早稲田大学文学学術院教授
研究者番号 : 00163741

坂上 桂子 (SAKAGAMI KEIKO)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号 : 90386566

(4)研究協力者 :

遠山 茂樹 (TOYAMA SHIGEKI)
高知大学・人文学部・準教授
研究者番号 : 40335914

入江 正勝 (IRIE MASAKATSU)
千葉商科大学・非常勤講師

鈴木 無二 (SUZUKI MUNI)
早稲田大学・非常勤講師

杉本 昌昭 (SUGIMOTO MASAOKI)
早稲田大学・道空間研究所・客員研究員
研究者番号 : 90318715

池田 祥英 (IKEDA YOSHIFUSA)
早稲田大学・非常勤講師

小藪 明生 (KOYABU AKIO)
早稲田大学・文学部・助手
研究者番号 : 30506142

河野 昌広 (KOHNO MASAHIRO)
関東学院大学・非常勤講師

平野 直子 (HIRANO NAOKO)
早稲田大学大学院・博士後期課程

リュドヴィック・ブリュノー
(Bruneaux Ludovic)
元早稲田大学非常勤講師